



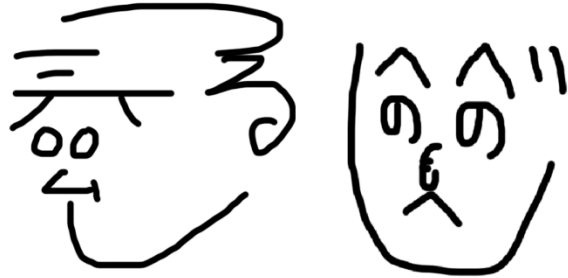
「へのへのもへじ」で猫を描く

by ナスビ



「じかきうた」とは？

「じかきうた」というものをご存知でしょうか？ これは絵描き歌の一種で、主に文字を利用して絵を描くもので、言葉遊びの要素もちょっとあります。有名な例としては「つるさんはまるまるむし」や「へのへのもへじ」などが挙げられます。ぶっちゃけ、「じかきうた」をひと



↑ つるさんはまるまるむし(左) と へのへのもへじ(右)

と言で言うなら「へのへのもへじみたいなもの」といった感じです。

この「じかきうた」は非常に奥が深いもので、実際に「へのへのもへじ」で色々な絵を描いている芸人さんもいるほどです。

「へのへのもへじねこ」が流行



2012年4月、Twitterで「へのへのもへじ」を使って描かれた猫が巷で話題を呼び流行しました。この猫は「へのへのもへじねこ」と呼ばれ、その可愛さから、あらゆる派生猫が作られたり、Tシャツが作られたりしました。

↑ へのへのもへじねこ(左) と そのTシャツ(右・nesnoo®販売)

実はこの「へのへのもへじねこ」、絵の構造がかなりシンプルであるために誰でも簡単にアレンジを効かせたりして創作することが可能です。絵心がない人でも関係なく可愛い猫が描けます！ 実際、「俺、へのへのもへじ世界一うまく描けるぜ？」なんて自慢してるヤツどこにもいないですよ。

という訳で、可愛い「へのへのもへじねこ」を描くためのコツなどをのんびり書いていきたいと思います。



↑ いろいろ描いてみた「へのへのもへじねこ」

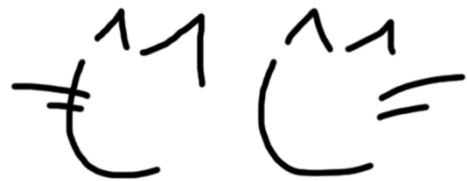
「へのへのもへじねこ」の解析



「へのへのもへじねこ」と言うからには、使える文字は「へ」×3、「の」×2、「も」「じ」×1の計7文字だけです。これらの文字をうまく猫のパーツと対応させるのが大事な所です。この文字と猫のパーツとの対応をまとめてみます。

例えば、猫には欠かせない「猫耳」を考えてみます。猫耳というと「角のところがた耳」ですよ。使える文字の種類は「へ」「の」「も」「じ」の4つ。この中でとがった部分を持つのは「へ」だけ。よって、猫耳に関しては「へ」でしか描きようがないこととなります。

他にも「ひげ」を考えてみます。ひげがあるだけで猫らしさが出てくるので大事なパーツですが、横線が欲しくなるパーツでもあります。横線として使いそうなのは「じ」の濁点部分と「も」の横線ですね。よく使える手段として、こちらから見て顔の右側にひげを描くなら「じ」、左側に描くなら「も」を使って、両者に共通する「し」の部分を使って顔の輪郭を描くと、綺麗に猫っぽくなります。



↑ 「も」を使ったひげの描き方例(左)と「じ」を使ったひげの描き方例(右)

次に「しっぽ」について考えてみましょう。しっぽは長い線で表現ができそうですね。無理やり長い線をかけそうなのは「へ」



↑ 「じ」を使ったしっぽの描き方例

「も」「じ」の3つですね。しかし、「へ」は猫耳で既に2つ消費しており、残りの1つは必要な線の補助としてよく使われます（よくあるのは胴体の一部で使われるパターン）。

つまり、「へ」をしっぽで使うのはあまりない例です。「も」か「じ」のうち、ひげで使われなかった方をしっぽに持っていくのが最もスタンダードなパターンです。

このように消去法的に考えていくと、猫と文字の対応を整理しやすいです。これ以上書くと、ちょっとグダグダになるので、私が適当に猫パーツと文字との対応を表にまとめてみました。

猫パーツ	対応可能な文字(例)	説明
猫耳	「へ」	多分これでは描けないと思います。
ひげ	「も」「じ」	「し」部分で顔の輪郭を表現。
しっぽ	「も」「じ」、希に「へ」	ひげで使っていない方を主に使用。
目	「の」「へ」「じ」	基本は「の」。ウィンクは「へ」。ひげを犠牲に「じ」を使って、眠ったかのような横線の目を表現するのモアリ。
前脚	「の」	「の」を「σ」のように描いて前脚っぽく。
胴体	「へ」「の」	例外はあるものの、だいたいはこの2文字。

創作ワンポイントアドバイス



実際に「へのへのもへじねこ」を創作する際、頭の中でどの文字をどこに置くかを考えるよりも、**適当に手を動かしながら考えるのが効率的**です。また、「へのへのもへじ」の順番に従って文字を置く必要はありません。この際、「へのへのもへじ」の7文字を使って猫を描く」と頭の中で割り切って、その**順番については頭から切り離しましょう**。

個人的に一番効率がいいと思う方法として、先に顔の部分にじっくり時間をかけて描き上げていき、残った文字のパーツでなんとかして胴体やしっぽを完成させる手順があります。

私の場合、ペイントソフトにマウスで描いているため、気を抜くと猫さん顔面崩壊という惨事になってしまうため、最初に顔を描いて、後は楽したいという理由からこのような手順をとっています。ちなみ



に私の場合、耳から描くのか、顔の輪郭から描くのかはその時の気分によって適当な順番になります。

慣れてきたら、「へのへのもへじ」の順番に沿って文字を置いていく縛りプレイなどをして面白いかもしれませんね。

↑ 「へのへの…」の順番通りに文字を置くより、顔から適当に描きながら作るのがやりやすい。

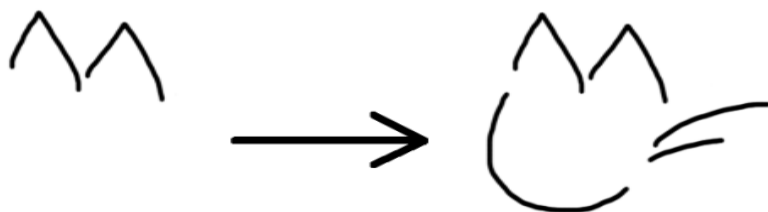
← 「言い出しっぺの法則」という事で、順番縛りで描いてみた。



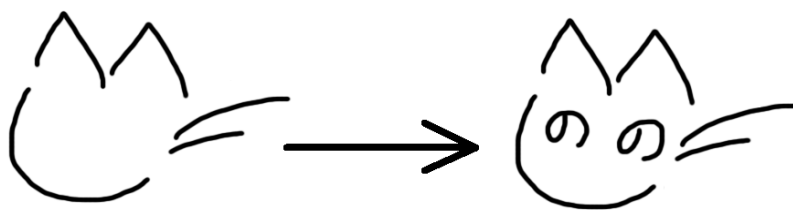


さて、実際に「へのへのもへじねこ」を描く手順の一例をお見せしましょう。あくまで今回私が描いてみたらこんな手順になった程度のもので、「こんな描き方があるんだな」程度に読んでください。

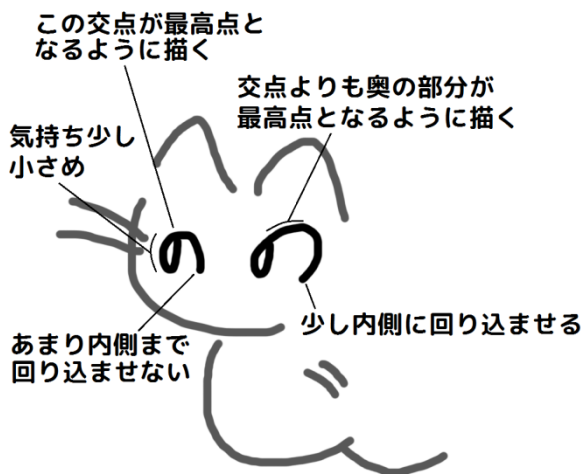
1. 顔の整形



まずは「へ」を2つ消費して耳を描き、次に今回は「じ」を使って顔とひげを描いてみました。ちなみに、言うまでもなく、マウスで一発で描けたわけではなく、アンドゥを連発して何回も描き直しまくってます。



次に「の」を2つ消費して目を描きました。「の」を使って目を描くのは結構難しく、可愛く見せるのには少しコツがいります。具体的に言うと、こちらから見て

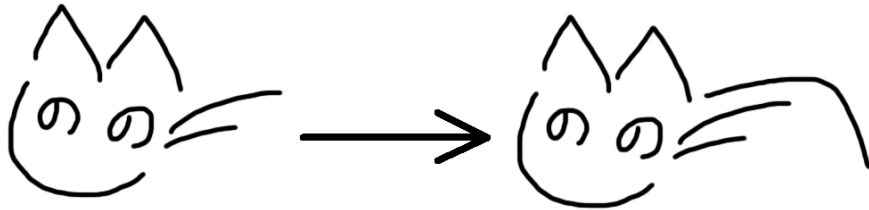


左側の目は少し小さめに書き、「の」の交点の部分が最高点になるように描く、右側の目は交点の部分より奥側が最高点となるように描く、といった具合なのですが、これに関しては左の絵を見てもらったほうがわかりやすいと思います。

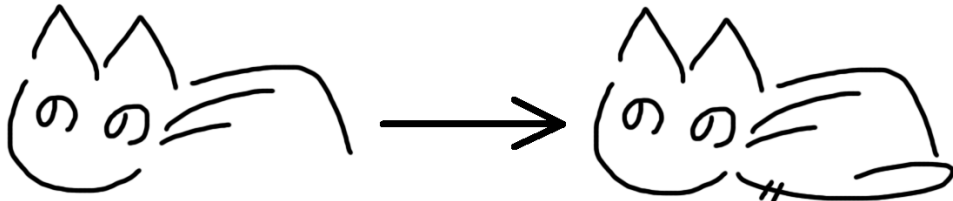
ですが、初めの内はあまりこれに凝り過ぎず、気楽に何度も描きなおすのが良いでしょう。

2. 胴体の生成

この時点で「へ」と「も」だけが残りました。この2文字で胴体を表現していきます。

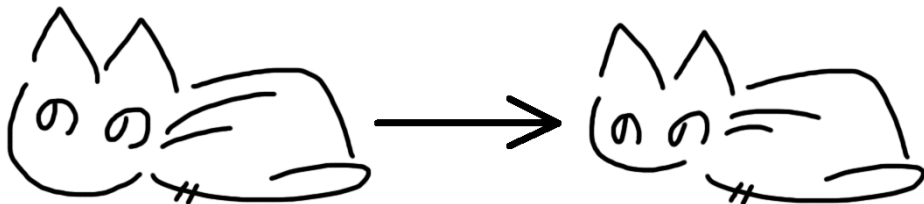


とりあえず、「へ」を使って胴体の一部である背中を描きました。しかしこの時点で猫の顔がカバミたいになっていると気づきます。とりあえず、今描いているのは構想決定段階と割り切って作業を進めていきます。

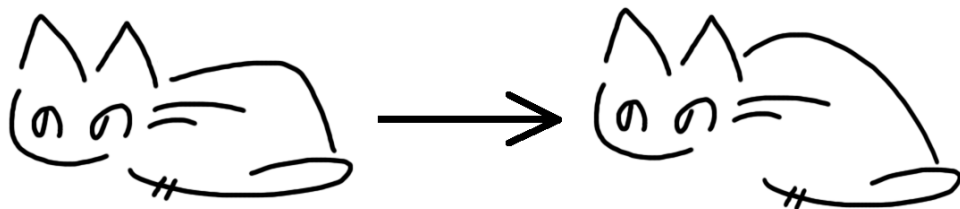


最後に「も」を横向きに配置して、しっぽが身体全体を巻いているかのように表現してみました。一応これで完成です……が、顔はカバミたいだし、頭でっかちだし、ひげと背中がほぼ平行のおかげで横線が密集しているみたいでだらしないし、目が可愛くないしで、あんまり出来としては良くないですね。ブサイクです。ここからアナログに描き直したり、デジタルに拡大縮小・移動などを行いながら修正をしていきます。

3. カワイイをつくる



まずは顔の部分を修正してみました。主な修正点は、目をさっき言ったコツの通りに描き直し、顔を小顔化。耳は微妙に描き直して縮小処理を施しました。ひげも綺麗な線になるように描き直しました。これだけで随分と猫っぽくなりましたね。



胴体部分も修正してみました。背中はもっと丸みをつけて、耳の後ろから線が出ているように描き直し、しっぽは小型化して位置調整しました。これで修正の作業も完了です。最後に、なんか見た目がなにか啞えてそうな感じの猫に仕上がったので、「へのへのもへじさかな（適当に命名）」を描き加えて完成です。



最後に

「へのへのもへじねこ」の面白さが少しでも分かってもらえたでしょうか。「じかきうた」のひとつであった「へのへのもへじ」が進化したらここまで面白くて、より奥深いものになります。本家である「へのへのもへじ」とは違って、「へのへのもへじねこ」の方は創作の幅がかなり広いところもより味わい深い点だと思います。ぜひ、この魅力に惹きつけられたなら、見るだけでなく自分だけの「オリジナルへのへのもへじねこ」を作ってみてください。

実は猫だけでなく、なんと有名なアイツも「へのへのもへじ」で描けてしまうそうです……？

